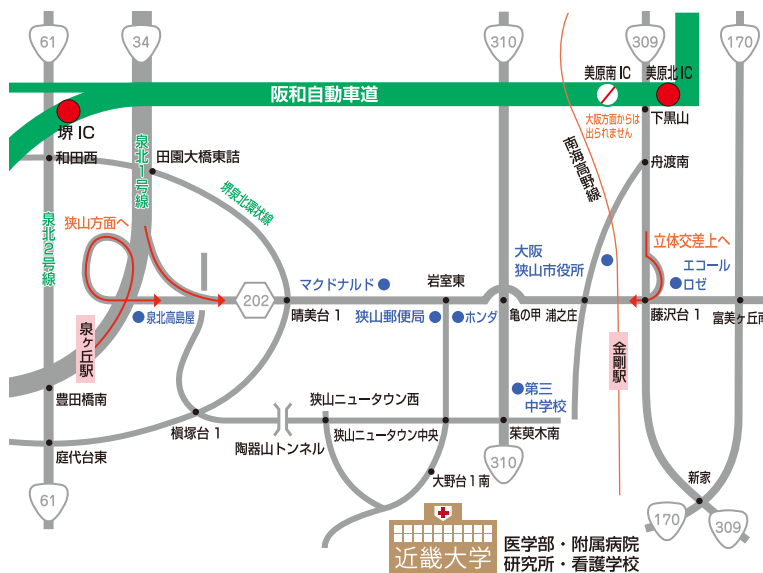


アクセス



電車・バスでお越しの場合



各診療科のご案内

3F	産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター(麻酔科)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
2F	循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
1F	整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さん 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日
紹介状をお持ちの患者さん 8時30分～14時00分		創立記念日(11月5日) 年末年始(12月29日～1月3日)

※ 当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参頂きますようお願いいたします。
※ 初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として10,800円(税込)をご負担頂きます。
※ 診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

患者さん用駐車場ご利用案内

2015年4月1日より、駐車場利用方法及び料金に変更になりました。

最大料金1,000円が適用

最大料金適用日時	平日・土 14:00～24:00 日・祝 13:00～24:00
----------	-------------------------------------

入場より最初の30分無料

当日受診の患者さん

入場より3時間まで	100円	以降60分 100円
入場より4時間まで	300円	
当日1日最大料金 1,000円		

お見舞いの方・一般の方

入場より1時間まで	300円	以降60分 200円
-----------	------	---------------

当日受診の患者さんは、駐車券を院内へお持ちいただき、「2階会計窓口」で割引処理を行ってください。精算は屋外(病院棟1階出入口付近)の事前精算機をご利用くださいますようお願い申し上げます。

編集後記

近畿大学医学部附属病院広報誌「きずなVol.16」をお届けします。本年4月1日から「ドクターカー」の運用を開始しました。南大阪の地域医療から先進医療まで幅広い診療を展開できる特定機能病院として、皆さまに安心・安全な医療を提供できるよう教職員一同取り組んでおります。これからも附属病院の取り組みや情報を分かりやすくお伝えできるよう努力して参ります。今後とも皆さまとのつながりを大切にする「きずな」をご愛読のほど、宜しくお願い申し上げます。

- 発行日 平成28年6月30日
- 発行場所 近畿大学医学部附属病院
- 編集 広報誌発行委員会 大磯 直毅

<http://www.med.kindai.ac.jp/huzoku/kizuna>

きんだいびょういん 検索

お知らせ 広報誌「きずな」のバックナンバーは、病院ホームページよりご覧いただけます。アンケートもホームページ上で実施しておりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

きずな



Kindai University Hospital



Kindai Now

2016年春よりドクターカー運行開始!

特集1 クターインタビュー
ハイブリッド手術室
特集2 PET/CT検査に新装置導入
がん検診のススメ
特集3 緩和ケアセンター設立
がん向き合う



近畿大学医学部附属病院

今号の表紙 コンシェルジュ 外来正面入り口の窓口では病院業務に精通した人材が施設利用や受診相談を中心に対応。また病院に対する貴重なご意見ご要望もお聞きします。心を尽くし患者さんの満足度向上と職員の安全・安心に努めていきます。

CONTENTS

Kindai University Hospital きずな Vol.16

01 病院長メッセージ

KINDAI NOW

02 2016年春 ドクターカー運行開始

特集

03 1:ドクターインタビュー ハイブリッド手術室

05 2: PET/CT検査による がん検診のススメ

07 3: がんと向き合う 緩和ケアセンター設立

診療科紹介

09 歯科口腔外科

10 東洋医学・漢方診療科

つながる近畿大学

11 国際学部

卒業生の今

12 ささきクリニック

変わる近大病院

13 通院治療センター

MEDICAL REPORT

14 難病患者在宅医療支援センターの活動

FACE OF THE HOSPITAL

15 看護部 110病棟/がん看護専門看護師

連携病院つなぐ

16 医療法人正雅会 辻本病院

17 イベントスケジュール

18 患者支援センター



病院長
メッセ
ージ

電子カルテシステムの統合、
ドクターカーの運用で、より充実の医療を

近畿大学医学部附属3病院では、今年の1月に電子カルテシステムの統合を行いました。3病院間での治療記録の共有はもちろん、プライバシーとセキュリティに配慮しながら、近隣の一般病院、クリニックとの連携がますます緊密になることが期待されます。また、この4月から医師が同乗して駆けつけることができるドクターカーの運用がはじまりました。南大阪エリアの救命救急のニーズに応えるための取り組みを、今後加速させていきたいと思っております。



理念

患者本位の開かれた病院として、
安全で質の高い先進医療を提供します。

基本
方針

- 1 特定機能病院として、
医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
- 2 教育病院として、
人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
- 3 南大阪における基幹病院および救急災害病院として
地域医療に貢献します。
- 4 働きがいのある病院として、
チーム医療と環境整備に努力します。

Kindai Now

2016年春 運行開始!

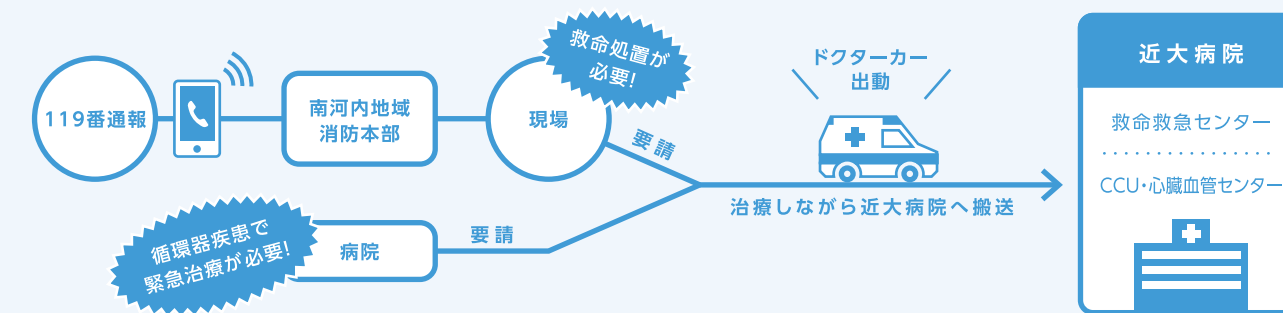
緊急時要請出動

ドクターカーシステム

ドクターカーには、専門医師、救命救急スタッフなど3~4名が搭乗し、一刻を争う重症患者さんのもとへ駆けつけます。車内には、人工呼吸器や心臓を強制的に長時間拍動させることができるペーシング機能がついた除細動器など多くの装置が装備され、病状の安定化や処置を行うことができます。医師管理のもと近大病院へ搬送することが可能なため、従来搬送できなかった患者さんを安心して近大病院へ運んでくれることが可能になりました。それにより、救命率、後遺症の軽減、社会復帰の向上を図ります。これからは、南大阪の医療圏を越えたエリアにも対応できる体制づくりも課題と考えています。



ドクターカー出動から搬送まで



ドクターカーを導入した2つの大きな目的

1. 119番通報があり、消防本部の要請に応じて、緊急を要する患者さんへできる限り早く現場で治療すること。
2. 一般の救急車では搬送することができない他の病院にいる重症患者さんを、治療しながら近大病院へ搬送すること。

この2つを大きな目的として、ドクターカーを導入しました。

Q. 大規模災害が起こった場合、ドクターカーは出動するの?

A. はい、出動します。場所にもよりますが、ドクターカーに乗り、災害現場で、専門の医師が重症患者さんの治療を開始します。日々そのような事態を想定した訓練も行っております。

ハイブリッド手術室



整形外科 准教授 宮本 裕史

神経や血管を傷つけない手術を

CTシステムを備えた最先端のハイブリッド手術室では手術の正確性が高まるので、患者さんはもちろん、ドクターのストレスを減らすことにもつながります。金属を脊椎の正しい場所に入れる手術など、近くの神経や血管を傷つけないように細心の注意が必要な手術も、ハイブリッド手術室なら安全に、迅速に行うことができます。

心臓血管外科 教授 佐賀 俊彦

治療の負担を格段に減らせます

高度な画像と連動しながら手術を行う心臓血管外科では、ハイブリッド手術室の効果が絶大です。たとえば、大動脈瘤のステントグラフトや弁膜症のカテーテルでも、血管の場所が正確にわかるので、より安全に手術を行えます。今後の目標として、大動脈弁狭窄症に対してカテーテルで人工弁を留置する手法の実施を掲げています。

脳神経外科 准教授 泉本 修一

診断・治療・手術を同室で

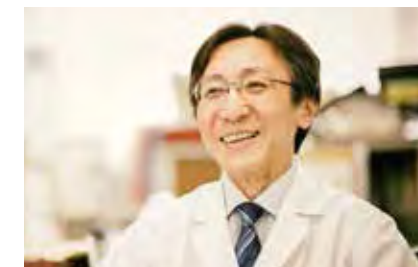
これまで脳血管診断や血管内治療は血管撮影室で、開頭手術は手術室で行っていましたが、今後はひとつのハイブリッド手術室内で完結させることができるようになりました。術中に3次元CTとナビゲーションシステムを連動させることで、動脈瘤の手術や動静脈奇形の摘出、動脈瘤のバイパス手術などを、より安全に行えるようになります。

精度が高く、患者さんの負担が少ない治療ができる最先端の手術室です

外科 教授 安田 卓司

現代医療が急速に発展する中、近大病院は南大阪エリアの基幹病院として常に最新の医療を提供していかなければいけません。今回のハイブリッド手術室の導入もその一環と言えるでしょう。ハイブリッド手術室では、担当科のドクター、放射線技師、臨床検査技師、看護師など、各分野の専門スタッフが一堂に集まり、血管撮影やX線透視などで得た画像をリアルタイムで確認しながら手術を行えます。コンピューターの正確性と、ドクターの技術を融合させることで高度な手術をより正確に行えることはもちろん、ピンポイントで患部を狙えるので、患者さんの体への負担が減り、日帰り手術が増加することにも期待できます。また、今回の導入にあたっては、患者さんがリラックス

して手術に挑めるような工夫も取り入れました。たとえば、手術室へとつながる各所に中庭を望める窓や自然光が注ぐ天窓などを設け、少しでも心地よくお過ごしいただけるように配慮しています。当初は心臓血管と脳神経、整形が中心になりますが、今後は科を問わず、新たな手術の可能性を、この近大病院のハイブリッド手術室から発信していくことが夢であり、目標にしています。



WHAT IS

ハイブリッド手術室

手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室です。従来は手術室に移動型の装置を運び込んでX線透視・撮影を行いながら手術を行っていましたが、現有の装置では心・脳血管カテーテル造影X線装置の出力、透視画像等が高度な術式に対応で

きない状況でした。ハイブリッド手術室ではその場でX線撮影し、直ちに高画質な3D画像を作成・観察しながら、大動脈瘤治療、あるいは血管修復術の手術であるステントグラフトなどの先進的な手術を迅速かつ安全に実施することが可能となります。

特集 2 PET/CT検査による がん検診のススメ

がんは、がん細胞の成長がある程度進んでからでないとい発見しにくい病気です。
PET/CT検査は、その早期発見に最も有効と言われている検査方法のひとつ。
がんを小さなうちにいち早く発見するためにも、ぜひ「PET/CT検査」を受けてみませんか。
※がん検診に係るPET検査費用は自費診療扱いとなります。詳細な費用については下記受付にお問い合わせください。

PET検査の仕組み

人間の細胞はブドウ糖をエネルギー源として活動しています。これはがん細胞であっても同じ。しかし、がん細胞は成長が早いので、普通の細胞と比べて3~8倍のブドウ糖を消費します。PET検査ではこの原理を利用しています。ブドウ糖にフッ素18という放射線同位元素をつけた薬剤(FDG)を体内に取り込み、PETカメラで撮影すると、ブドウ糖を他よりも多く消費している細胞がひと目でわかります。つまり、それががん細胞。PET検査は薬剤を体内に入れ、カメラを当てるだけで、がん細胞の場所や大きさなどをすぐに調べることができます。
※一般的にがん細胞が大きくなると、治療が難しくなると言われています。

早期発見とされる「がん」は、約2~3cm以下

がんを早期発見することは、がんの治癒の可能性を飛躍的に高め、また治療の範囲も最低限で済む、といった効果があります。

2016年3月に導入された新機器でより「小さながん」をより「鮮明に」写し出せるように

PET/CT装置はPET装置とCT装置の良いところを組み合わせることで、より診断情報の多い画像を得ることができる装置。小さながん細胞でもどこにあるのかはっきりと確認でき、他の検査よりも精度の高いがん診断を行うことができます。また、たった一度の検査で全身の検査が可能で、短時間で終わり、痛みや不快感がないのも大きなメリットです。
当施設に2016年3月に導入された新機器では、これまでよりも「小さながん」を、さらに「鮮明に」写し出せるようになりました。がんは早期発見・早期治療ができれば治る可能性が高い病気です。あなたもぜひ、新しいPET/CT装置による「全身のがん検診」を受けてみませんか。

受付連絡先

高度先端総合医療センター(PET分子イメージング部)受付
TEL (072) 366-0221 (内線2604、2605) FAX (072) 366-3690
[受付時間] 月~金/9:00~17:00 土/9:00~12:45

PET/CT検査の流れ



PET/CT




 歯科口腔外科

 院外・院内と幅広くつながる、
個性豊かな歯科口腔外科

 一般歯科医院では
できない医療を

外来では紹介状によって幅広い患者さんの受け入れを行っています。特に顎関節疾患では学会の認定研修施設として、南大阪エリア随一の実績を持ちます。また、これまでインプラントは保険外で治療費が高額になっていましたが、最近になりがんなどによって失われた歯や顎の場合は保険対象に。今後ますます多くの需要が見込まれます。他にも睡眠時無呼吸症候群に対してマウスピースを用いた手法を確立するなど、一般歯科医院ではできない医療を提供しています。

 入院患者さんを
網羅的にサポート

医学部の中にある歯科として役立つため、「入院患者さんの口腔状態を整えることで、その後の治療をスムーズに進める」という試みをはじめました。術前に口の中をきれいにすることは、術後の肺炎リスクを下げたり、麻酔をしやすくするというメリットがあります。気管や肺の手術前の口腔ケアの重要性はすでに知られていましたが、すべての入院患者さんを対象にしたのはとても画期的なことだと思います。従来行ってきた入院中の口腔ケアとともに、今後はこの取り組みをさらに拡大させていく予定です。

歯科口腔外科 教授 濱田 傑



東洋医学・漢方診療科


 西洋医学と東洋医学の
いいとこどりで

 西洋医学のすき間を
埋める東洋医学

病気の原因を血液検査などで細かく調べる西洋医学に対して、患者さんの体質などを全体的にとらえ、自然治癒力を向上させることを得意とするのが東洋医学です。例えば、抗がん剤の副作用からくる「身体がだるい」「食欲がない」といった症状は、西洋医学だけでは改善しにくいのですが、東洋医学では症状を緩和する漢方薬を処方できます。このように病気として扱われにくい症状に、西洋医学にあわせて、漢方や鍼灸治療を応用しています。

日常生活に密着！

夏におすすめの漢方薬

梅雨の時期には漢方の症状としての「むくみ」（水滞）を原因とした、めまい・頭痛・耳鳴りを訴える方が増えます。漢方には「むくみ」をとるような薬もあるので、その薬一つでめまい・頭痛など、複数の症状が緩和されます。また、冷房のかけり始める6月には「冷え」を訴える方が増えます。これには五積散（ゴジャクサン）という漢方を処方するのですが、このような現代病にも、2千年前からある漢方を活用できます。

東洋医学研究所 所長／教授 武田 卓



グローバル化する現代社会が求める、
世界で活躍する人材の育成を



グローバル化が急速に進展する現代社会において、世界を舞台に活躍できる人材の育成が求められています。国際学部は、近畿大学の建学の精神である「実学教育」を根幹として、高いコミュニケーションスキルと幅広い教養、考え抜く力と行動力をもった、世界で活躍できるグローバルリーダーを育成します。

世界最大級の語学・グローバル人材育成企業として多くの実績を持つ、ベルリッツコーポレーションと連携協力。ベルリッツが持つ語学教育のノウハウを生かし、社会で通用するビジネス英語を身につけるための、独自の語学学習システムを構築します。また、全学生を1年間の海外留学へ。準備段階から充実した経験をえられるよう学習をフォロー

し、留学中のサポート体制も整えています。専修言語は15人以下の少人数クラス制でディスカッション等も取り入れ、学んだ言語を積極的に使えるように促します。

理想のプログラムを形成し、近畿大学は国際ビジネスで通用するグローバル人材の育成をスタートします。



国際学部国際学科
学部長/教授
クレイグ ヴァージル

学部紹介

高度な英語運用能力を身に付け、多文化社会で活躍できる人材の育成を目指すグローバル専攻(450人)には、多様な地域の特性・課題を理解する「グローバル・スタディーズ」、言語の機能とコミュニケーションを学ぶ「コミュニケーション・スタディーズ」、アジア各国の歴史や文化、日本との関係を学ぶ「アジア・スタディーズ」の3つの専門領域があります。東アジア専攻(50人)は「中国語コース」「韓国語コース」に分かれ、各言語と英語を身に付け、近隣諸国との交流に貢献する人材育成を目指しています。

卒業生の今

卒業生として、夫婦で、近大病院とともに発展・精進していきたい

昭和63年(1988年)に近畿大学医学部を卒業後、当時の第一内科に入局し、9年間近畿大学医学部附属病院で学んだ後、清恵会病院で15年勤務いたしました。そして平成24年(2012年)に、同じ医局出身で11期卒業生の妻・智子と一緒に、和泉の土地で「ささき・クリニック」を開院いたしました。

金剛から泉ヶ丘への移転計画を聞きます。近畿大学医学部附属病院のさらなる発展を祈念し、卒業生として母校を辱しめぬよう夫婦で精進していきたいと考えております。

標榜している循環器内科はもとより、ほぼすべての科にサポートをお願いするような状況で、附属病院の先生方には大変お世話になっております。先日も附属病院を受診した患者さんから「よい先生を紹介して頂いた」との声をいただきました。母校を褒められ、卒業生として嬉しいかぎりです。



[9期卒業生]
佐々木 剛 先生



ささき・クリニック

診療科目/内科、循環器内科

診療時間	時間	月	火	水	木	金	土	日
午前診	9:00~12:30	○	×	○	○	○	○ ~13:00	×
訪問診療		○	×	○	○	○	×	×
午後診	16:00~19:00	○	×	○	○	○	×	×

休診日/土曜日の午後診、火曜日、日曜日、祝日

病院情報 〒594-1106 大阪府和泉市はつが野3-1-5
TEL.0725-53-4970 FAX.0725-53-4974
URL.http://www.sasaki-clinic.biz/

変わる 近大病院

— 通院治療センター —



2016年5月 通院治療センターリニューアル 身体(からだ)も心も、ゆとりの持てるセンターへ

通院で化学療法・ホルモン治療を受ける患者さんへ、安全・快適な治療環境を提供する通院治療センター。今まで入院で行っていたがんの抗がん剤治療を外来にシフトするという国の方向性や、地域の患者さんの「ゆとりを持って治療を受けたい」などのご要望に応える形で、今年5月リニューアルにいたしました。センターでは、特に、抗がん剤治療は

重篤な副作用が発現しやすいため、副作用の早期発見・早期対応を心がけ、患者さんの精神的・身体的ご負担を少しでも緩和できるよう努めていきたいと思っております。検査と診察の連携による合理化など、より患者さんにご相談しやすい環境をつくっていきけるよう、これからも安全で快適な治療環境をご提供してまいります。

リニューアルPOINT

ベッド数が18床から28床に。

通院治療センターを利用される患者さまは年々増加。現在毎月1,100~1,200人が利用しており、1ベッドあたりの利用率も全国平均を大きく上回っています。改装(増床)することでゆとりを持って治療を受けていただけるなど、患者さんの負担軽減に努めたいと思っています。

よりきめ細やかな治療と看護を。

増床によりゆとりを持って治療室へご案内することが可能に。治療内容に合わせて使用するベッドを変えられるだけでなく、これまで以上に、患者さんのさまざまな思いを気軽に看護師、薬剤師、管理栄養士や臨床検査技師にご相談いただけるようになります。

専用の待合室が完備されます。

新設される通院治療専用の待合室では、さまざまな症状に関するリーフレットはもちろん、ウィッグ、化粧品、ネイルなどの情報紙も多数ご用意。待ち時間を情報収集に充てるなど、患者さんご自身でも有意義にお過ごしいただけるようになります。

MEDICAL REPORT

— 難病患者在宅医療支援センター —



「負けない医療」を、新しい医療モデルに

医療技術の進歩により、かつて「難病」と称された多くの病気が克服できるようになりました。あの恐ろしい「がん」でさえも、今は決して、かなわない相手ではなく、「治る」可能性のある病気となっています。

一方で未だに根治療法も、場合によっては対症療法すらない病気もあります。私たちのセンターが主たる対象としている「神経難病」は、その好個の例と言えるでしょう。私たち医療者は「治らない」病気にどのように向き合えばよいのでしょうか。これは当センターに課せられた重要な課題です。もし、それをひとりで示せと言われたら、私は「負けない医療」と表現したいと思います。

「闘病」という言葉があるように、これまでは病気とは「戦い、克服すべき」相手でした。がんを例に取りましょう。まずは手術で「敵」の勢力を取り除く、手術が無理なら放射線で攻撃、潜伏するゲリラ戦術には抗がん剤の全身投与、最近では「ハイテク技術」で敵をピンポイントで叩く分子標的薬まで登場しました。全く、これは文字通り、勝つか負けるかの戦争であり、この現場では原則として「勝つ」ことが要求されます。

しかし、「神経難病」相手にはこのような戦術は使えません。敵

は知らず知らずのうちに忍び込み、神経細胞をひとつひとつ消し去っていきます。敵の顔が見えないまま、仲間が次々と倒れていくのです。それも「破壊」というような劇的なものではなく、本当に「消え入るように」神経細胞が姿を消していくのです。

敵がそう来るなら、私たちも考え方を変えましょう。病気を戦う相手と考えず、その厄災を最小限に食い止めるためにどうしたらよいか、工夫を凝らすのです。時には敵にも妥協して、なだめてやりましょう。失われた大切な身体機能をさまざまなツールや支援するチームの力によって支えましょう。敵が見えないなら、私たちの味方、支えるチームの仲間を増やしましょう。大学病院だけでなく、地域の病院、往診医、医師や看護師だけでなく、地域のケアスタッフも味方につけましょう。病気にはこうやってやりましょう。「私たちは勝てません、けれど、負けません」。

今、私たちは神経難病を中心に取り組んでいます。しかし、この「負けない医療」は、高齢化を迎えた日本社会のさまざまな疾患に対する医療場面に広げられるのではないかと、ひょっとしたら誰も見たことのない「新しい医療モデル」になるかもしれない、そんな妄想を抱きながら日々の活動に取り組んでいます。

難病患者在宅 医療支援 センターとは

当センターは「地域医療介護総合確保基金事業」として大阪府からの委託を受けて、2015年1月からスタートしました。難病患者さんが医療関係機関による治療とケアを受け、安心して在宅による療養生活がつけられるよう、情報提供や同行訪問などを通して地域の診療所、病院などをサポートしています。

FACE OF THE HOSPITAL

— 看護部



病棟紹介

110病棟

腫瘍内科、心療内科、緩和ケア科の患者さんが入院する総室と、特別室を希望するあらゆる科の患者さんが入院する混合病棟です。抗がん剤の治療やがんになって気持ちが落ち込み心身症になるなどの緩和ケアを必要とされる方をはじめ、カテーテル検査、手術や放射線治療などさまざまな治療を受ける方がおられます。患者さんたちの早期退院を目指し常に多職種で情報交換を行っています。



副看護長からの一言

竹久志穂

看護師が医師をはじめとする多くの医療者と日々話しあえる機会を多く持ち、さまざまな方向から患者さんを支える力を養えるよう、患者さんの「病」を見るだけでなく、「病をもつ人」を見ることを心がけています。

スペシャリスト紹介

がん罹患は人生を揺るがす出来事、一人で抱え込まないようサポートしたい。

水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定分野の技術・知識があると認められたのが専門看護師です。がん看護専門看護師はがん患者さんとご家族の苦痛を理解し、QOL(生活の質)の視点に立った看護を行います。診断・治療・再発、積極的治療の中止など多くの節目に合い、その都度難しい意思決定を迫られるがん患者さんとご家族は、痛みなどの身体的苦痛だけでなく、先行きへの不安やご家族・仕事との向き合い方など…心理社会的な苦痛も乗り越えていかなければなりません。がん罹患は人生を揺るがす出来事です。患者さんが一人で抱え込むことなく、周囲の人々と共に自分らしく生活できるように、サポートしていきたいと考えています。

がん看護専門看護師 志方優子



連携病院

Cooperation Hospital

医療法人正雅会 辻本病院

当院で受診いただいている患者さんの多くは近隣の医療機関からの紹介でお越しいただいています。専門的な治療が終了したり、ある程度病状が落ち着けば、紹介元の医療機関に紹介させていただいたり、患者さんに本当に必要な医療を適切な医療機関で受けていただけるように緊密な連携を行っています。



辻本病院からのメッセージ

当院は大きな病院で急性期の治療を終えられ病状が安定した患者さんが、ご自宅へ戻ることに、または介護施設への入所に不安を感じる時に、準備をして頂く中継地点としての機能を持ちます。また在宅療養支援病院として、ご自宅でも安心して治療を継続できるよう訪問診療・訪問看護も行っております。近畿大学医学部附属病院からも、がん治療後の方、ご自宅でのケアが困難な方を一般病棟・医療療養病棟にご紹介頂いております。「地域の医療と介護の架け橋のような存在に。」をスローガンに、地域密着の医療サービスをご提供できるよう努めて参ります。

〒589-0031 大阪府大阪狭山市池之原2-1128-2
TEL 072-366-5131
URL <http://www.seigakai.or.jp/>

小規模病院として地域に密着した「正しい医療」「適切な医療」を提供することを理念とし昭和48年(1973年)に開設して以来、急性期を担う病院として地域医療の最前線に立ってこられました。診療科数12科、病床数99床を備えておられます。内科部門では全身疾患(特に糖尿病や高血圧、高脂血症など)の治療や消化管疾患、その他さまざまなお悩みを持った患者さんに、一人ひとりの生活をふまえた、ともに考え長く付き合っている関係性を大切にされています。外科部門では虫垂切除、鼠径ヘルニア手術、肛門手術などに積極的に取り組み、特に内痔核に対しては注射のみで治療を目指す内痔核硬化療法を導入されています。「高齢化社会への変化が進むなか、来院する方を診ているだけでは社会貢献はできない」との考えから訪問

診療・看護も実施。平成27年(2015年)4月に訪問看護課を立ち上げ、自宅看護・介護に看護師の手が必要になった方へ訪問看護を提供されています。訪問診療では通院が困難な方に対して大きい病室・手術後に一時的にバックアップ。がん患者さんの診療には緩和ケア認定看護師が同行するなどの対応もされています。日本では在宅で緩和ケアを受けることができず、緩和ケア認定看護師とチームで自宅での生活をサポートされています。診療科の専門・細分化により複数の疾患がある方が全体的な治療を受ける難しさが浮き彫りになっていきます。そんな変化に対応しながらチームワークと機動力を生かし、地に足をつけて目の前の患者さんとご家族に向き合い、信頼を得られるよう努められています。

小規模病院ならではのチームワークと機動力

イベントスケジュール

当院では医療に関するさまざまな講座・教室などを開催しております。

お気軽にお問合せ・ご参加ください。

第29回 近畿大学医学部 市民公開講座 もっと知って欲しい大腸がんのこと 2016 in 大阪狭山

地域住民の皆さんや患者さん、ご家族に向けた本講座は29回目を迎えます。大腸がんについての解説や最新の治療法まで、専門医が分かりやすく解説します。ぜひ、この機会にお気軽にご参加ください。

開催場所 近畿大学医学部 円形棟大講堂
時間 14:00~17:00
対象 一般市民の皆さま 先着500名
参加費 無料(車でお越しの方には受付時に無料駐車券を発券)
申込み 不要(直接会場にお越しください)

9/10(土)

会場では大腸がんの検査・治療に使用する機器などのブースも展示します。どなたでもご自由に観覧いただけますのでお気軽にお越しください。

参加特典
参加者には「大腸がんのこと」冊子をお配りします。
また、ブルーを身に着けてご来場の方には粗品をプレゼントいたします。



講師/近畿大学医学部附属病院 病院長 奥野 清隆 ほか

お問合せ/近畿大学医学部 事務部総務広報課 072-366-0221(内線3873)

ともに生きる会 <がんセンター主催>

私たち病院スタッフと、がん患者さん・ご家族が「ともに学び、ともに生きていく」ことを目標とした会です。さまざまなテーマに基づき、がん医療に携わる専門家による講演・意見交換を行っております。どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。

開催場所 近畿大学医学部附属病院 PET棟3階 大会議室
時間 14:00~15:00 **参加費** 無料 **申込み** 不要

- 7/7(木)**
▶ 近畿大学のPET検査・PET検診
- 1/12(木)**
▶ 進行がんと上手に付き合うために
- 9/1(木)**
▶ ここまで進んだがんの個別化医療
- 3/9(木)**
▶ 放射線治療 ~最前線~
- 11/10(木)**
▶ 早期からの緩和ケアを考える

お問合せ/072-366-0221(内線5192)

肝臓病教室 <肝疾患相談支援センター主催>

肝臓病の理解を深めていただけるよう、肝臓専門医などスタッフがわかりやすくお話しします。当院を受診されていない方でも、興味がありましたらどなたでもお気軽にご参加ください。

開催場所 近畿大学医学部附属病院 PET棟3階 大会議室
時間 15:00~16:00 **参加費** 無料 **申込み** 不要

- 6/21(火)**
▶ 肝炎ウィルスキャリアについて
▶ 精密検査で肝臓状態を調べよう
- 12/6(火)**
▶ 肝硬変について
▶ 食欲不振・吐き気がある時の食事は
- 8/9(火)**
▶ B型肝炎と言われたら
▶ 治療費助成はどうやったら受けられるの?
- 2/7(火)**
▶ 肝細胞がんと転移性がんについて
▶ 生活で気をつけることは
- 10/4(火)**
▶ C型肝炎と言われたら
▶ 新しい薬について知りたい

お問合せ/072-366-0221(内線3803)

第56回 市民公開講座
日本消化器病学会近畿支部
「専門医が答えます」
~おなかの癌の早期発見法、予防法~
近畿大学医学部附属病院消化器内科の先生が解説します。
開催場所 堺市立東文化会館(堺市北野田)
時間 13:00~16:00
参加費 無料
申込み 不要(直接会場にお越しください)

8/28(日)
お問合せ/072-366-0221(内線3525)

第72回 日本脳神経外科学会近畿支部学術集会
市民公開講座
「まさかと思った時のための脳の病気の話」
近畿大学医学部附属病院脳神経外科の先生が解説します。
開催場所 近畿大学医学部 円形棟大講堂
時間 14:00~16:00
参加費 無料
申込み 不要(直接会場にお越しください)

8/20(土)
お問合せ/072-366-0221(内線3773)

リボンの会
患者さん・ご家族のみなさんによる語りを中心とした会です。がん体験者ピアサポーターがナビゲートしてくれます。7/28のレクチャーでは医師や専門家からがんと生活に役立つお話しをします。
開催場所 近畿大学医学部附属病院 PET棟3階 大会議室
参加費 100円(15時からのお茶代)
申込み 不要(直接会場にお越しください)

7/28(木) 14:00~
8/25(木) 15:00~

患者支援センター

患者さんの療養生活にまつわる様々なことに対応する総合相談窓口として、他機関や地域そして社会との連携の架け橋となるのが患者支援センターです。



患者さん・ご家族・地域の開業医の先生や医療機関、介護施設や介護事業所の方々そして院内のスタッフからのご相談やご依頼をお引き受け致します。患者さんとの信頼関係を大切にして受診される皆さまの権利を守っていきたくと考えております。

受付時間
月~金 9:00~17:00
土 9:00~12:00

療養支援

- 在宅での看護ケアの継続
- 介護保険の申請やサービスの調整
- 訪問診療医や転院先の選定
- カンファレンス開催等

医療相談

- 医療費制度・費用に関する相談
- 公費負担・労災・交通事故等の手続き
- (患者さん相談窓口併設)
- (肝疾患相談支援センター併設)

地域連携

- 診療の予約
- かかりつけ医選定
- がんセカンドオピニオン等

患者支援センター

福祉相談

- 医療費等経済的な問題
- 社会保険・社会福祉制度について
- 心理的問題
- 社会復帰等

その他

- ともに生きる会等
- 患者さん向け講演会事務局
- (がんセンター事務)
- (難病患者在宅医療支援センター事務)

個人情報保護について

個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さんの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。
1.個人情報の利用目的について当院では、患者さんの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただいております。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さんからの同意をいただくことになっておりますのでご安心ください。
2.当院では、患者さんの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。